

今後の管理のポイント

- ・水深3cm程度の浅水で管理し、有効茎確保まで分けつの発生を促しましょう。
- ・雑草の発生が多い場合は、中・後期剤による除草を行いましょう。
- ・補植用残苗は早急に処分しましょう。

1 気象の概況

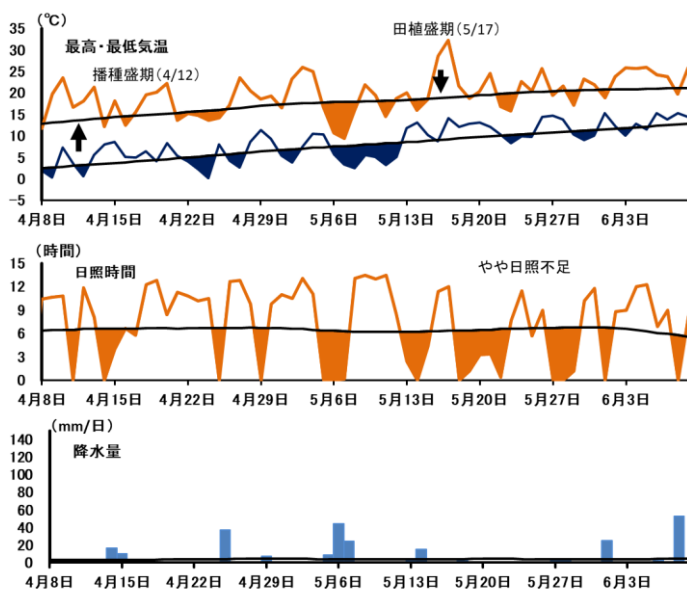


図1 気象経過図（気仙沼アメダス：4月8日～6月10日）

表1 気象経過（気仙沼アメダス）

	平均気温(°C)		日照時間(h)		降水量(mm)	
	本年値	平年差	本年値	平年比	本年値	平年比
4月 中旬	11.6	2.7	31.5	47%	21.0	64%
4月 下旬	11.6	0.8	54.0	79%	53.5	124%
5月 月上旬	12.6	0.0	52.0	82%	15.0	37%
5月 中旬	14.8	1.3	63.5	102%	11.5	28%
5月 下旬	15.9	0.6	55.1	77%	93.0	200%
6月 月上旬	18.6	2.3	76.8	118%	76.5	194%

・5月までの気温は平年並から高い

・6月上旬の平均気温も高く、中旬以降も平年より高くなる見込み

2 水稻生育調査ほの生育概況

表2 水稻生育調査結果（6月10日調査）

品 種		田植日	栽植密度 (株/m ²)	植付本数 (本/株)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色値 (GM)
ひとめぼれ 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/11	20.3	5.6	22.7	268.0	36.1
	前年比・差	-1	98%	110%	99%	89%	+3.6
	平年比・差	-4	101%	103%	89%	81%	-0.4
ひとめぼれ 南三陸町 (志津川)	本 年	5/10	18.0	6.6	26.3	257.4	34.8
	前年比・差	-1	94%	161%	104%	109%	+2.9
	平年比・差	-2	99%	128%	95%	93%	-3.4

注) 平年値は平成30年から令和4年までの5か年の平均値。

- ・田植え後の活着は良好で、管内の生育調査ほにおける生育も概ね順調です。
- ・m²当たり茎数は平年をやや下回っていますが、近年は生育が旺盛で過繁茂傾向であり、6月10日現在の茎数が過剰傾向で、葉色がやや低くなっていたことから、本年は概ね適正な生育となっています。

3 今後の管理の留意点

【水管理】

- ・活着後は水深3cm程度の浅水で管理し、分げつの発生を促しましょう。
- ・低温や強風が予想される場合には、5～6cm程度の深水としましょう。

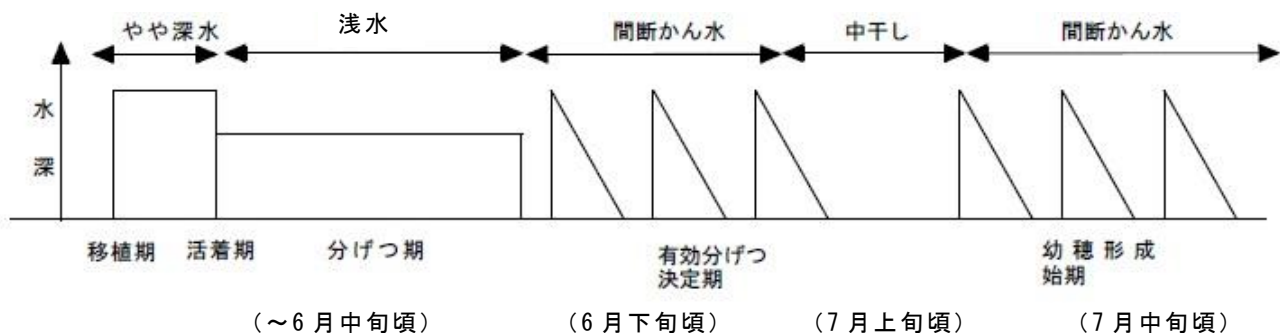


図2 出穂期までの水田水管理体系（宮城の稲作指導指針（基本編））

【ガス発生軽減】

- ・生わらや牛ふん堆肥等の有機物を多用している水田では、気温の上昇とともに有機物の分解が盛んになり、還元状態となるため、稲に有害な硫化水素等のガスが発生しやすくなります。中干しや一時的な落水などで土壌中に酸素を供給し、根の障害を防ぎましょう。

【中干し】

- ・中干しは、根の活力の向上、無効分げつの発生抑制、作土層の硬化促進などの効果があります。有効茎数（表3）を確保したら、幼穂形成期（7月上旬頃）までに完了できるよう、早めに実施しましょう。
- ・中干しは、「田面に小さな亀裂が入り、軽く足跡がつく」程度とします。

表3 品種別有効茎確保期（中干し開始時期）の日安（宮城の稲作指導指針（基本編）県栽培ごよみ）

品種名	時期	中干し開始時の ㎡当たり 茎数（本）	田植時の設定株数	
			50株/坪(15.2株/㎡) の場合 1株当たり本数	60株/坪(18.2株/㎡) の場合 1株当たり本数
ひとめぼれ	6月20日頃	310～360	20～24	17～20
ササニシキ	6月25日頃	460～500	30～33	25～28
まなむすめ	6月20日頃	460～500	30～33	25～28
みやこがねもち	6月30日頃	380～430	25～28	21～24

【雑草防除】

- ・初中期一発剤を散布したほ場でも、水持ちが不十分だったり、埋土種子や多年生雑草の塊茎などが多かっていると、雑草が発生してきます。成長が進むと除草剤の効果が得られなくなるため、雑草の種類や葉齢を確認し、中・後期剤等を適期に施用しましょう。
- ・ヒエやイヌホタルイ等の雑草は、稲の出穂前にカメムシ類を水田に呼び寄せます。イヌホタルイやシズイにもアカスジカスミカメが寄生・産卵しますので、雑草対策を徹底し、斑点米発生による落等を防ぎましょう。

【病虫害防除】

① いもち病

- ・補植用の残苗は、本田でのいもち病の発生源となります。まだ残苗がほ場にある場合は、早急に処分しましょう。
- ・箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、水面施用剤（粒剤、パック剤）を初発の

1週間前まで（6月中旬頃まで）に散布しましょう。

- 箱施用剤等による予防防除を実施した場合でも、発病が見られたときは、速やかに茎葉散布剤で防除してください。
- 葉いもちは、直接収量や品質に影響を及ぼす穂いもちの伝染源となります。予防防除が管理の基本であり、発病が進展してからの防除では十分な効果が期待できないため、水田をこまめに見回り、早期発見と防除に努めましょう。

※発生予報については、宮城県病害虫防除所が公表している「葉いもち感染好適条件の出現状況(BLASTAM)」も参考にしてください。

(URL: <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>)

② イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ

- 移植前～移植時に箱施用剤（殺虫剤）を使用した場合は、原則として本田での防除は必要ありません。
- 移植前～移植時に箱施用剤（殺虫剤）を使用しなかった場合は、移植後に以下の要防除水準を目安に防除してください。
- 殺虫剤を育苗箱処理した水田でイネドロオイムシの発生が多い場合は、薬剤抵抗性が発達している可能性がありますので、普及センター等にご相談ください。

イネミズゾウムシ	侵入盛期の畦畔際2m程度の成虫密度：100株当たり140頭 (晩期栽培の場合は70頭) (減収率5%)
----------	--

イネドロオイムシ	侵入盛期の成虫密度：100株当たり25頭、 又は産卵盛期の卵塊密度：100株当たり80個 (減収率0%)
----------	---

③ シズイ

- 気仙沼市、南三陸町は、比較的発生が多い地域です。例年発生が多いほ場では、多年生雑草に効果がある成分を含む除草剤を使用しましょう。
- 初中期一発処理剤で防除しきれなかった場合は、中後期剤による防除を行きましょう。
⇒特に、水持ちが悪いほ場では、ベンタゾン剤（商品名「バサグラン粒剤」、「バサグラン液剤」）等の施用が有効です。

※シズイが大きくなると、次年度の発生源となる塊茎が形成されます。ベンタゾン剤の施用時期が遅いと、地上部は枯れますが、塊茎は生き残るので、密度を下げることはできません。除草剤の登録内容に則ったうえで、なるべく早期に散布を行きましょう。

○「だて正夢」の栽培管理について

表4 だて正夢現地栽培技術普及展示の生育調査結果（6月10日調査）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	植付本数 (本/株)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色値 (GM)
だて正夢 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/7	19.9	6.4	33.8	209.4	40.3
	前年比・差	-4	95%	116%	116%	96%	+7.5
	平年比・差	-7	99%	118%	111%	78%	+1.8

注) 平年値は平成30年から令和4年までの5か年の平均値。

- ・茎数は平年より少なくなっていますが、標準的な茎数※は確保しています。
 - ・今後は低温時以外は浅水（3cm程度）で管理し、分けつ発生を促しましょう。
- ※約150本/㎡（6/10の目安）（宮城県.2018.水稻品種「だて正夢」の栽培法）
目標穂数 350~450本/㎡

○「金のいぶき」の栽培管理について

表5 金のいぶき現地栽培技術普及展示の生育調査結果（6月10日調査）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	植付本数 (本/株)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色値 (GM)
金のいぶき 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/20	19.7	4.9	25.4	135.9	33.6
	前年比・差	+9	102%	132%	109%	55%	+2.5
	平年比・差	+9	102%	121%	99%	48%	-2.8

注) 令和3年から設置のため、平年値は令和3~4年度の2か年平均。

- ・移植が遅れたため、茎数は前年、平年より少なくなっています。
- ・今後は低温時以外は浅水（3cm程度）で管理し、分けつ発生を促しましょう。

目標穂数 440~490本/㎡

○直は栽培の栽培管理について

表6 乾田直は現地栽培技術普及展示の生育調査結果（6月10日調査）

品 種 地区名		播種日	苗立率 (%)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)
ひとめぼれ 気仙沼市 (本吉町)	本 年	3/15	36.4%	18.9	71.5
	前年比・差	-	-	115%	111%
	平年比・差	-	-	109%	51%

注) 昨年までは湛水直はのため、播種日、苗立率の平均値はなし。

- ・本年度から、「乾田直は栽培」の実証ほを設置しています。
- 乾田直はは、下記のような利点があります。

- ① 育苗が不要
⇒乾籾を直接播種
- ② 作業分散が可能
⇒雪解け・ほ場が乾燥すれば
3月から播種可能
- ③ 機械の汎用利用が可能
⇒播種機や鎮圧ローラーは麦類などでも利用可能



播種作業（約30分/50a）



ブ라우耕・鎮圧体系

耕盤層不要



ロータリー・代かき体系

移植圃場

出典：農研機構（2018）

乾田直播栽培技術 マニュアル Ver.3.1

普及に向け、実証ほでの研修会を随時開催予定です。

○東北地方の1か月予報（6月10日～7月9日までの天候見通し）によると、予想される向こう1か月の天候は下記のとおりです。

気温は高く、降水量、日照時間はともにほぼ平年並みとなる見込みです。

週別では、6月中旬までの気温は高く、以降は平年並の見込みとなっています。

（仙台管区气象台 令和5年6月8日発表）

（https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=040000&term=1month）

○気象から見た栽培管理のポイント

→浅水管理で分けつを促し、6月下旬までに目標茎数を確保しましょう。

→気温の上昇に伴い、雑草の生長も急速に進むため、中・後期除草剤の施用時期が遅れないよう注意してください。

→6月下旬にかけていもち病が発生してきます。発生予報も確認しながら、予防防除を行いましょう。

4月1日～6月30日は「春の農業安全確認運動」の実施期間です。

スローガン「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」

6月1日～8月31日は「令和5年度宮城県農薬危害防止運動」の実施期間です。

農薬を使用する前には、必ず使用可能な作物名・対象病害虫や雑草、収穫前日数等の登録情報をラベルやウェブサイト等で確認し、使用時期、使用方法、使用量を守って使用しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産省のウェブサイト（下記）※で確認できます。

URL（<https://pesticide.maff.go.jp/>）

※「農薬登録情報提供システム」の更新に伴い、令和3年3月10日より農林水産消費安全技術センターのウェブサイトから移動しています。